

No. 1449

# 北方領土の日

2月7日は「北方領土の日」。東京・九段会館の全国大会には、中曽根首相をはじめ、総理府総務長官らが顔をそろえ、北方領土返還運動を盛り上げた。戦後38年、一日として休むことなく叫び続けられてきた北方領土の返還要求。歯舞、色丹、国後、択捉、オホーツク海に浮ぶ北方の島々は歴史的にみても我が国固有の領土である。国民世論の盛りあがり、返還交渉には欠かせない。

## フラッシュ

- ① 牡丹散って打ち重なりぬ二三片。立春も過ぎ、あちこちから春の足音が聞こえてきます。
- ② 季節を先取りするのがファッション界。そこは、もう夏の盛りです。

# 青函トンネル貫通

— 東京・北海道 —

津軽海峡の地底 100メートルで本州と北海道を結ぶ世界最長の青函トンネル。この青函トンネルの先進導坑の貫通式典が、津軽海峡中央部の海面下 240メートルの現場と、東京の首相官邸を電話専用線で結んで行なわれた。1月27日、午前9時すぎ現地では発破準備が完了し、いよいよ秒読み。中曽根首相が官邸で発破スイッチを押すと、トンネルは約1メートルの壁が破れ、貫通。この瞬間、本州と北海道は初めて陸路で結ばれた。

東京オリンピックの開かれた昭和39年に掘削を開始、異常出水で工事は難航を極め、着工後18年8ヶ月の歳月が流れた。海底下という特殊条件下で、世界最長のトンネルを貫通させた我が国の技術水準は世界的に評価されたが、トンネルを譲り受ける国鉄は大きな負担となり、また民営、分割論が出ている国鉄自身の将来も未定で、青函トンネルには厳しい前途が待ち受けている。